

7月度月例句会 会報・HP掲載句

七月詠草

兼題：夜店、月見草、当季雑詠

夜店過ぐ十円硬貨の重たき日	中山 知祐
ほろ酔ひに夜店ひやかす宵の父	森 邦彦
綿菓子やふつくらと持つ夜店かな	生江沢五風
夜店風あまた匂ひをのせきたり	佐藤 政百
古書街の道沿ひの棚夜店めき	城戸崎雅崇
小夜更けて孤高に白き月見草	石原 克己
浅間嶺を黝 ^{くろ} く仰ぎて月見草	宮川 至剛
小半時待てど来ぬ宵月見草	清家 静楓
月見草人の訪ねし気配あり	大仲 正敏
人知れず廃屋の庭に月見草	小野 信
廃線と決まりし鐵路月見草	安井 正浩
病みし日々百日草の盛なり	六川 里風
暑気払ひ酒のつまみは生野菜	川田 勝美
孫と遊びし広っぱ夏工事中	眞田 宗興

以上